

映写技師は見ていた (1991)

THE INNER CIRCLE

メディア 映画

ジャンル サスペンス

製作国 アメリカ

色彩 Color

時間 137分

初公開日 1992/10/31

公開情報 C o I = C O L T R I

【キャッチコピー】

私は、見た。歴史の真相を。

【解説】

スターリン時代のソビエトで実際に起こった実話に基づいて映画化された衝撃作。主人公は、KGB本部の映写技師イワン・サンシン。1939年夏、結婚式をあげたばかりの彼は、突然KGBに連行される。行き先はなんとクレムリン。その日からイワンは、共産党書記長スターリン専属の映写技師として、権力の中核に入ってゆく……。物語は、イワンに対する妻の愛、スターリンに対するイワンの愛という皮肉な三角関係を縦軸に、スターリンの恐怖政治が終わるまでの激動の時代を横軸にして、ドラマチック且つサスペンスフルに展開してゆく。この作品の主人公イワンは実在の人物で、当時クレムリンで映写技師として仕えたアレクサンドル・ガンシン。映画は、その中枢部に入ってゆく彼の姿を通して、独裁政治の愚かしさ、権力の恐ろしさを克明に描ききっている。特に、ラスト近く、自分の妻の死を目前にしながらも、スターリンとおぼしき人物を見かけて慌てて駆け寄り、満面の笑顔で“スターリン！”と叫ぶシーンは圧巻。まるでマインド・コントロールされているかのような、あのビー玉にも似た“目”には、本作のメッセージである、権力が人間を思考停止にしてしまう“恐ろしさ”が凝縮されて描かれている。文句なく傑作と呼べる必見の1本だ。

【クレジット】

監督	アンドレイ・コンチャロフスキー	Andrei Konchalovsky
製作	クラウディオ・ボニヴェント	Claudio Bonivento
脚本	アンドレイ・コンチャロフスキー アナトーリ・ユソフ	Andrei Konchalovsky Anatoli Usov
撮影	エンニオ・グアルニエリ	Ennio Guarnieri
メイクアップ	ジャンネット・デ・ロッシ	Giannetto De Rossi
音楽	エドゥアルド・アルテミエフ	Eduard Artemyev
出演	トム・ハルス ロリータ・ダヴィドヴィッチ ボブ・ホスキンス アレキサンダー・ズブリュフ フェオドル・シャリアピン・J r ベス・メイヤー マーラ・バラノヴァ イリーナ・クプチェンコ	Tom Hulce Lolita Davidovich Bob Hoskins Feodor Chaliapin Jr. Bess Meyer Irina Kupchenko